

## 放課後活動で大切にしたいこと

「おかえり」「ただいま」放課後の場に今日も子どもたちがいろんな思いをもって帰ってきます。

2012年の児童福祉法改正により放課後の場が「放課後等デイサービス」として位置付けられてから10年が経ちました。子どもたちの豊かな生活を支えるために大きな役割を担う放課後活動ですが、そもそもの制度の不備に加え、近年の物価上昇の影響などにより事業運営は圧迫され、子どもや保護者に寄り添った実践をおこなう事業所ほどこびしい運営を強いられている現状があります。

子どもたちが豊かに過ごす放課後とは、どんなものでしょうか？ 今回の特集では、実践を通した子どもたちの姿や保護者の言葉から、あらためて放課後活動で大切にしたいことを考えたいと思います。発達・生活の保障、異年齢集団の価値、学校と家庭をつなぐこと…これまで積み上げられてきたことから学び、子どもたちの毎日の生活に欠かせない放課後活動を考えましょう。



ゆうやけ子どもクラブ  
村岡真治さん

副編集長が聞く！

## 放課後活動のいま ゆうやけの子どもたち

1978年の発足から、遊び・生活を通じて子ども的人格を育てる放課後活動を積み重ねてきた東京都小平市の「ゆうやけ子どもクラブ」。職員の村岡真治さんに、活動の中で大切にしてきたことをお聞きしました。

### 人格を育てる放課後活動

**村岡** 徹平という、せんべいが好きな、小1の自閉症の子がいます。おやつするとき、せんべいのおかわりがほしくて私の手を引き、おやつが入っている部屋の扉の前まで何度も連れていきます。「もうないよ」と言えば、泣き出して、周りの人に噛みつかうとします。そこで私は、「わかった。あるかどうか見てくるね」と言って、部屋の中に入る。空っぽの袋を出してきて、「あー、ゴメン！ やっぱりなかった」と言う。すると徹平は、「(村岡はアテにならない！) と思ったのか、今度は、他の職員の手を引いて、扉の前へ…。(せんべいがほしい) 気持ち